

## 特集にあたって

建築物の計画、設計、材料選択などを行う際には、様々な法律、基準、規格などの要件を考慮する必要がある。これまで『音響技術』では、下記の特集が組まれてきている。

- ・規格・基準の最近の動き(No.89)
- ・建築音響関係改正JIS(測定法、音響材料)(No.111)
- ・音環境関連の法・規格・基準の動向(No.134)
- ・最新基準・規格の解説(No.143)

音環境分野の基準類に関しては、災害や社会情勢などに応じて、様々な改正が随時行われてきている。その中には、音環境性能に与える影響が大きい改正があるものの、その背景や概要について音環境関係者に詳細が知られていないものも多くあると考えられる。さらには、音響材料や音環境性能の測定方法等に関する日本産業規格JISについても見直しが行われ、改正されてきている。

そこで本特集では、音環境性能に大きく関連する建築基準法等の改正内容をその分野の専門家から解説していただき、音環境分野からの対応等についても紹介していただいた。さらには、ここ最近改正された音環境に関するJISの内容についても解説していただいた。

『1.1 天井脱落対策のための特定天井について』では、東日本大震災による天井脱落の被害を受けて制定された天井脱落対策に係る技術基準(特定天井)について解説いただき、『1.2 ホール等における特定天井の改修事例』では、特定天井への改修時に、主に室内音響に関して参考になると見られる事例および課題について紹介していただいた。

『2.1 天井裏や小屋裏に達する防火上主要な間仕切り壁、隔壁の代替措置としての強化天井について』では、建築基準法で規定されている防火上主要な間仕切り壁や界壁の代替措置である強化天井の役割、要求性能等について解説していただき、『2.2 長屋又は共同住宅の界壁の遮音性能の見直しに関する技術的検討』では、小屋裏を介する側路伝搬系の音響透過損失の実験室測定法について解説していただき、建築基準法第30条等の改正内容についても紹介いただいた。

『3.1 木質構造建築物に関する建築基準法防火規定の改正について』では、最近大きな法改正が行われている防耐火関係について、法・政令・告示に規定される技術基準、構造方法等の内容について解説していただき、『3.2 実大火災実験を実施した木造3階建て学校の床衝撃音遮断性能と木造建築物における燃えしろ設計が床衝撃音遮断性能に与える影響に関する一考察』では、木造3階建て学校の床衝撃音遮断性能と燃えしろ設計が音環境に与える影響等について紹介した。

『4.1 住宅の省エネルギー基準における外皮性能の評価』では、省エネルギー基準制定の背景と変遷、住宅の省エネルギー基準、住戸の断熱性能の計算方法を解説していただき、『4.2 外皮の断熱仕様が音環境性能に与える影響について』では、断熱複合パネル直張り工法を断熱折り返しに用いた際における遮音欠損の要因と改善対策について紹介していただいた。

5.1～5.4では、最近改正が行われたJISの概要について解説していただいている。『5.1 JIS A 6322 浮き床用グラスウール緩衝材の解説』では、本誌187号でも紹介されているが、2017年に改正された変更点について解説していただいた。『5.2 日本産業規格JIS A 1418-2「建築物の床衝撃音遮断性能の測定方法－第2部：標準重量衝撃源による方法」の改正について』では、改正の経緯、改正審議で問題となった事項および今後の課題について解説していただいた。『5.3 日本産業規格JIS Z 8731:2019「環境騒音の表示・測定方法」の制定について』では、対応国際規格であるISO規格との整合を図りつつ、環境騒音の測定及び評価の日本の実状を考慮して改正された概要について紹介していただいた。『5.4 JIS A 6301「吸音材料」解説』では、2020年改正のポイントおよび附属書B(吸音材料の特性)の主要な変更点を紹介していただいた。

音環境に関する基準類については、最新の情報を入手することが重要となる。本特集が基準類の理解の一助となれば幸いである。

(編集担当：平光厚雄(文責))